

久留米大学を受診した患者さんへ

「動脈管開存カテーテル治療時の心腔内エコーの有用性」の研究に使用する情報について

この研究では、久留米大学を受診し、手術・検査の際に採取し保存されている以下の情報を使用します。

- 1) 期間：2013（平成 25）年 1 月から 2015（平成 27）年 1 月
- 2) 受診科：小児科
- 3) 対象疾患名：動脈管開存症
- 4) 使用する情報：診療情報等

あなたの情報を今後の医学の進歩のために研究に使用させていただきたくお願い申し上げます。研究の内容の詳細は以下のとおりです。

研究内容をよくお読みになり、もし研究にご協力いただけない場合は、お手数ですが下記の連絡先までご連絡ください。

研究ご協力の撤回受付は研究成果の公表前までとなります。

ご了承いただけますよう、お願い申し上げます。

- 1) 研究組織：所属：小児科

研究代表者：助教 工藤 嘉公

研究分担者：准教授 須田 憲治

助教 岸本 慎太郎

助教 吉本 裕良

2) 研究の意義と目的：本研究は、動脈管開存のカテーテル治療において、通常の大血管造影やX線透視に加えて、心腔内エコーを用いることで、カテーテル治療が、より確実にあるいは安全に行うことができるか、その有用性を明らかにすることです。それによって、今後の動脈管開存のカテーテル治療がより確実、安全に行えるようになります。

3) 研究の方法：動脈管開存のカテーテル治療を行った患者さんの診療録をもとに、心腔内エコーを使用して、どの位置、角度で観察すると動脈管の形態が明確に描出され、閉鎖栓が正しく選ぶことができるかどうか、カテーテル治療中の閉鎖栓と周囲の血管が見えるかどうか、遺残短絡の程度が評価できるかどうかについて検討します。

4) 研究期間：平成 27 年 7 月倫理委員会承認後～平成 28 年 3 月 31 日

5) 上記の情報の使用を選定した理由：動脈管開存症カテーテル治療中のモニタリングとして心腔内エコーを使用した症例について、その有用性を検討するためです。

6) プライバシー保護・人権保護・倫理的配慮について：患者さんの姓名は暗号化された番号に変更することで、患者さんのプライバシーを保護します。

7) 研究成果の発表の方法：本研究の成果は、学会や論文で発表します。

8) 利益相反：本研究は特定企業からの資金援助はありません。

9) 事務局、問い合わせ、連絡先：

（代表者氏名）工藤 嘉公 （所属、職名）小児科 助教

（住所）福岡県久留米市旭町 67 久留米大学小児科学教室

（TEL）0942-31-7565 （FAX）0942-38-1792